

ほうき星

words and music/ Ryousuke Anan

いつだって消えそうな気がした 明日そこにあるかもわからない
そんな事もおかまい無しで 小さな光は夜を描く

時代に背いたシステムで 無言の街に灯を灯す
誰の目にも触れてないのに 黙って空から灯を灯す

いつだって彼奴は叫んでいた 雲の隙間をかいくぐってでも
怯える素振りも見せないまま 夜空の向こうで叫んでいた

黒いキャンバスを照らし出す 失ったモノを燃やしながら
猫にも貝にもなりたくない 僕はあの星になりたい

誰かが指差して笑ってたな 宇宙のゴミが暴れてる
月の影に隠れてたら 誰も見つけられないな
そういうと彼奴はまたすぐに微かな鼓動を走らせる
性慾りも無く騒ぎ始めた 光を僕はそこに見た

除け者にされても構いやしない 諦めるだなんて冗談じゃない
英雄とかヒーローとかそんなんじゃなくて
あの星になりたい

黒いキャンバスを照らし出す 沈んだ空気を蹴散らしながら
この世界中を照らしている
僕はあの星になりたい

僕はあの星になりたい